

# 唐丹文集

## 「さち草」詠草

### 唐丹短歌会

○ 街をねるチャグチャグ祭りの馬の背に寝れる幼の頬あどけなし  
 ○ チャグチャグ馬つこの装束外し帰り行く馬の親子の早視野を消ゆ

上野ウタ子

○ ゼラニユームの赤き花咲き盛り不順の天候漸くに逝く春

須貝美佐子

○ 定まらぬ天候つづけど花花は競いて季節を先どりて咲く

○ カサプランカ我が丈よりも高く伸び悠悠として未だひらかず

磯崎 彬

○ わやわやと湧き立つごとく磯の香はいのち漲る浜の青春

中嶋多喜子

○ 孫結ぶ目に新しき佛式儀念空ふかく清や染み舞ふ  
 ○ 春陽舞ふ朱橋渡る孫と娘に緋の傘なほも白無垢に映え

大津 秀子

○ わが植えし紫ひかるなす二本とりて夫との夕餉が弾む  
 ○ ひと呼吸二呼吸しては鎌を立てて専業農婦のわれ汗をふく

環 あき

○ 公園の老樹櫻の木根を張りて耳を当てれば水音脈打つ  
 ○ 植えし人知る事無しにコスモスはスックと育つ青空のもと

高橋 昌子

○ プランターに蒔きたるみず菜食む夕餉しやきしやき食感ひとり楽しむ  
 ○ 手術後の痛み抱へて大寒のふるさとを去る八十の姉  
 ○ 「ほんたうは行きたくないよ」と小声にて言ひたる姉の声消えやらす

## 梅花講員の募集

私たちは曹洞宗梅花流詠讃歌を通して、正しい信仰に生きます。  
 私たちは曹洞宗梅花流詠讃歌を通して、仲よい生活をいたします。  
 私たちは曹洞宗梅花流詠讃歌を通して、明るい世の中をつくります。

梅花講の日時

毎月17日 午後1時 盛岩寺本堂にて  
 第4日曜日 午後1時 盛岩寺本堂にて

お申し込みは下記へ連絡下さい

55-2158番 (高橋昌子)

55-2174番 (盛岩寺)